

---

# みる肛門

B J

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

みる肛門

### 【Nコード】

N7975B

### 【作者名】

B J

### 【あらすじ】

チーム肛門の5人旅が今回はハワイへ進出！そこでおこなわれたどたばた珍道中とは！

肛門「カツカツカツカツ！今日も良いお天気ですのお〜カクさんや、カツカツカツカツ！」

カク煮「本当に良いお天気で何よりですご隠居様、遠路遙々ハワイまで来たかいがあつたという物です」

ちやつかり八兵衛「いやあ〜まったくカクさんの言う・・・」

スケ平「こら八兵衛！お前は呼んでないぞ！どうやってこのジャンボに乗り込んだ！」

肩車の弥七「まったくふてえ野郎だぜ、八兵衛の野郎は」

カク「てか、お前も呼んで無いんだけど弥七！」

八兵衛&弥七「まま、ちつちやなことは言いつこなし！」

スケ「パスポートも持たないくせによくまあここまでこれたもんだ」  
弥七「操縦してきましたから」

八兵衛「お前はパイロットか！（頭）バチンツ！」

肛門&カク&スケ「・・・・・・・・・・・・・・・・」

肛門「これこれ、せっかくハワイまで来たのじゃ、みんな仲良くしなさい！カツカツカツカツ！」

スケ「しかしご隠居、やつぱりハワイはいいですねえ、青い海、青い空、快適な気候」

肛門「そして浜辺にはパツ金のねえちゃん達、カーカツカツカツカツ！」

カク「さつそく泳ぎましょう！」

八兵衛「きゃっほおうーっ！」

肛門「まったく八兵衛ときたら、カツカツカツカツ！」

スケ「ご、ご隠居・・・杖ついたままで海に入って来ている・・・」

カク「てか、いきなりバタフライかよご隠居！」

弥七「スケさん、なんだかアメ公の野郎達サーフィンばっかしやーがってあぶなっかしいですね」

カク「ほんとだな弥七、ちよつと、とつちめてやるうか？へ、へイ！ユ、ユ、ユ、ユー！ア、アイアム、カクサン」

弥七「何言つてんっすかカクさん！もうちつとバシツと言つてやりましようや！」

カク「だつて英語わかんないもの、だつたらお前がいつてみるよ弥七！」

弥七「わかりやした・・・ヘイ！（中指立てて）ファツキユー！ファツキユー！ファツキユー！リメンバー・パールハーバー！ノーモア・ヒーロシーマ！！アナルセツクス！」

アメ公サアーファアー「ワツチュツセイイ！？モンキー！！」

ガンツ！ゴキンツ！バゴンツ！ゴガンツ！ガツンツ！

弥七はアメ公サアーファアー達の5人連続ボード先端攻撃を喰らつた弥七「・・・てえめえらあゝ・・・てめえらあゝ・・・」

スカ！スカ！スカ！スカ！スカ！

弥七はすかさず5人のアメ公のアキレス腱に必殺の風車を撃ち込んだパラ、パラ、パラアゝ・・・

しかし必殺の風車は爽やかな南風のおおられ吹き飛んでいつてしまつた

カク「むむうううゝアメ公めええゝ・・・ご隠居！！ご隠居！！」

スケ「！！あれ！？ご隠居がない！てかサアーフィンしてるぜご隠居おおつ！！」

肛門「カツカツカツカツ！なかなか楽しいものですねゝサアーフィンは、カツカツカツカツ！」

八兵衛「どうでもいいけど杖ついたままはやめてくんないかなあご隠居おおゝ」

ブライアン「イヤ、ムシロソウデハナイ、ツエヲツイタママデ、サアーフナンテ、ワタシニハ、シンジラレナイ！ラレナイ！」

八兵衛「お前は日ハムの監督か！（頭）パシツ！てか誰だあーお前えー！」

ブライアン「2004、5、6ネンドノ、セカイチャンプデース」

八兵衛「おおっ！あの有名な伝説のサーファー、ブライアン・マルコビッチ！！サイン下さい！」

スケ「まったく八兵衛のやつときたら・・・」

カク「そろそろ時間とするかスケさん」

スケ「そうだなカクさん、年寄りの冷や水は体によくない、ご隠居そろそろも・・・てか、チューブの中くぐってるよおおっ！！！」

カク「弥七！」

弥七「へいっ」

シユパアー！グサツ！

弥七が放った風車は見事に肛門の眉間に突き刺さった

プカァーン

肛門はカモメの大群につつかれながら血だらけになりゆっくりと浮かんでいた

カク「八兵衛！ご隠居の首にこのロープをくり付けてくれ！！」

八兵衛「あいよ、がってんだ！」

ブロロロオオオー！ブロロロオオオー！

カク「レッツ・ゴー！！」

カクは肛門をくり付けたジェット・スクーターを一気に加速させおもむろに沖からビーチへと向かった

八兵衛「あれで大丈夫なんですかねえスケさん・・・ご隠居死んじまうんじゃないですかい？」

スケ「別にいいじゃん、なあ弥七」

弥七「そうですともスケさん」

八兵衛「それもそうですね・・・」

ブロロロオオオー！ブロン！ブロン！ブロン！ブロン！

肛門「カァー！カツカツカツ！カァー！カツカツカツ！そ・・・そら・・・が・・・あ・・・青い・・・ですのお・・・おお・・・く・・・雲が・・・が、が、が、が、が、が、が・・・」

肛門は水上を勢いよくバウンドしながらカクさんが操縦するジェット

ト・スクーターの轟く爆音と共に常夏のハワイの爽快な南風をシンシユンと斬りながらビーチへと向かっていた。途中、イルカの群れが肛門の滑りっぷりを祝福するかのよう肛門を取り囲むように泳ぎ、ジャンプしたり、スピンしたり、ときには肛門をくわえたまま錐揉みでジャンプしてきたりと、まるでお祭り騒ぎの如く肛門をエスコートしていた

スケ「よぉ〜し！俺たちもご隠居様に負けるな！全速力で泳げえええっっ！！」

4人のクロールの追上げの勢いは凄まじい物があった

おそらくこの4人なら北京オリンピックで確実に金メダルが取れるであろう

いつしか4人はカクさんのジェット・スクーターを追い抜きビーチへ到着したにもかかわらず、そのまま勢いあまってクロールのままカウアイ通りまで乗り上げアラモアナショッピングセンターで座礁したが、なおもクロールの勢いは止まらず4人は警備員の警棒で後頭部を殴打されるまでクロールし続けていたと警備員のハロルド・マツコーリー（38）はそう証言している。4人は意識を取り戻すと再びワイキキビーチへと全速力で走って戻って行ったのであった。

肛門「カツカツカツカツ！これこれ皆さんいったい何処へ行っておったのじゃ、カクさんもおらんし、わしゃもう不安で不安でウンコちびりそうじゃったよカァーカツカツカツカツ！」

と、肛門は全身血まみれになりながら爽快に、そして少々小刻みに震えながら笑って見せるのであった

スケ「ご、ご隠居！ど、どうなされましたそれは！」

肛門「うう〜ん・・・あつちこつち体中が痛いんじやが、それがてんでわからんにじゃよ、ま、なにはともあれあなた達が戻って来ましたから一安心ですカツカツカ・ゲホッ！グフオッ！ガホッ！ゴホッ！」

スケ「それにしてもカクさんは何処に行っただらう？ 弥七！ みんなで手分けして探そう！ あ、ご隠居はここで甲羅干しでもしていて下さい、このサンオイルが滅法効きますから、それでは行つてきま  
す！」

八兵衛「スケさあーん！ いましたぜカクさんがあーんっつ！」  
カク「いつたい何処にいたんだ八兵衛！」

八兵衛「むこうのビーチで現地の高校生達とビーチバレーをしてます！ あつしが呼んでもてんで聞く耳持ちやしねえんでさあ！！ スケさんも弥七の兄貴も早く来ておくんせえーんっつ！！」

スケ「いくぞ弥七！」

弥七「へいっ！」

「パカッ！ パカッ！」  
「ブヒヒヒイイーンッ」  
「パカッ！ パカッ！  
パカッ！ パカッ！ パカッ！ パカッ！」

八兵衛「なんで馬やねんっ！」

スケ「カクさん！ ・カクさん！ ・おおー！ っつ！ カクさあ  
ああーんっ！ ・いかん、バレーに熱中しすぎて周りが  
見えなくなつてしまつている、弥七プリーズ！」

弥七「へいっ！」

弥七はカクさんめがけて風車の一斉射撃を開始した。 弥七の風車が容赦なくカクさんに刺さる、刺さる、またこれが小気味の良いように突き刺さる、しかしそれでもカクさんは倒れない、それはあたかも覚醒剤によつて自身の感覚が分からなくなつてしまつた人間の恐ろしさを感じられた、しかし弥七の必殺の風車も負けてはいない、よりいっその嵐のような風車の集中砲火をカクさんに浴びせかけた、何千・いや、何万本がカクさんに突き刺さつただらうか、カクさんの姿は全身風車で覆われ、それはあたかも風車人間としてバレーに打ち込む変わり果てたカクさんの姿がそこにあつた」  
スケ「ちっ・バケモンめっ・弥七！ 周りの奴らを狙え！」

弥七は今度は周りの高校生達に照準を合わせると、一人一人、丹念に確実に頸動脈をピーポイントで狙い必殺の風車を放ち始めた。 数









人はちんぽごとノース・シユアまで地獄のツーリングをするハメになるのであった。さすがチーム肛門の切り込み隊長やるときはやるものなのだ。さて、次なる2番バッターは弥七だ。弥七は数々の修羅場をくぐり抜けてきた海千山千の喧嘩師なのだ、弥七が相手に選んだのは金髪のにやけた少々美形の野郎と黒縁めがねの出っ歯でマツシユルムカットと弥七が一番嫌いなタイプのヤツだ。弥七の闘争心に火がつかないわけがない。おまけにこのマツシユルム野郎はボードを弥七の後頭部にあてたあとかかとで弥七の脳天を直撃させた男だったのだ。弥七には並々ならぬ殺意さえあった。弥七は挨拶代わりに2人の金玉めがけ風車を放った。沖の時とはちがい弥七の風車は確実に2人の金玉を捕らえていた。くの字に倒れ込み悶絶する二人。勝負はもうこの時点ついていた。弥七は悶絶する2人の海パンをズリ下げるとおもむろにケツの穴めがけ延々と風車を打ち込むのであった。そのおかげで2人の肛門は直径80センチまで押し広げられていたのであった。2人は白目を剥き泡を吹きながら意識を失っていた。二人の血の穴に咲く大輪の風車。シーサイドに強い南風が吹き出すとその風車全体が回り出す。徐々に2人の上半体が動き出す。四つん這いになりながら2人は南風に煽られ加速し出すと徐々に離陸しだしまいにはマウイ島の方角へと飛んでいってしまった。カクさんと言えば空手の達人だ、軽快なフットワークでシヤドウボクシングをしてみせる中肉中背の弱冠シドニーポワチ工似の黒人を選んだようだ。いきなり黒人のパンチの嵐が飛んできた。カクさんはその集中連打に耐えて耐えて耐えて黒人のすきを伺っていた。とそのときカクさんは反撃にうつて出た。いきなり黒人の目に特性辛子入りの防犯スプレーを吹き付け、すかさず懐からスタンガンを出すと速攻で黒人の両脇にあてて見せた。膝からガクツと崩れ落ちる黒人をガムテープでグルグル巻きにすると金属バットで延々と殴打するのであった。完全に黒人はノビていたにもかかわらず、それでも延々とカクさんは時には微笑さえも浮かべさせながら果てしなく殴打し続けるのであった、ここで真打ち登場、スケさんのワ

ンマンショーが繰り広げられる。・・・予定だった。しかし意外にもスケさんは喧嘩が弱かった。スケさんは飛び膝蹴りを相手から喰らわされると4回転半拵りをしながら吹っ飛んでいき、そのままマウントされ延々と往復ビンタを喰らわされるわ、髪の毛は引つ張り回されるわ、将棋の駒を口に入れられ顔面をボコボコに殴られるわ、ドライバー、7番、4番アイアンで何度も何度も金玉をフルスイングされるわ、バックブリーカーありの、ラリアートありの、ブレインバスターありの、角材で殴られ、ムチでしばかれ、ホテルの5Fベランダから落とされるて、ビーチに埋められスイカ割りわされるわで瀕死の状態にさらされていた。ハワイはいくら日本人多しといえども所詮アメリカの一部、やっぱりなんつってもアメリカ人が多いのだ。この大乱闘でワイキキビーチは大騒ぎ、しかも現地の人間がやられて劣勢ときている。そこでアメリカ人特有のナシヨナリズムに火がついてしまった。4人は大勢の殺気だったアメ公に囲まれていた。多勢に無勢、日本人も結構いたのだが日本人特有の《触らぬ神にたたり無し》精神にのっとりそそくさホテルに引き上げる者、訳が分からぬ英語、アラビア語、韓国語、中国語を話し出し、貝掘り、砂山作り、地引き網、どさくさにまぎれSEXしだす者もいて助け船など来るよしも無かった。そうかれらは絶体絶命の状態にさらされていたのだった。

カク「・・・んんんんん！！・・・このアメ公めらがあああゝゝゝ・・・  
・かくなる上は伝家の宝刀を出すしかないなスケさん！！」  
スケ「ハア・・・ハア・・・ハア・・・グ、グボオオツ・・・ゼイ・・・ゼイ・・・い・・・いてえええゝ・・・そ、そうだな・・・だ、出すしかなかつぺえええええゝ・・・ぼちぼち8時45分だしな・・・」  
カクはアメ公に縛られダンゴ虫状態になつてる肛門のロープをときいよいよクライマックスにむけ毅然とした態度でまわりのアメリカ人の群衆に向かって一世一代の大啖呵をきってみせるのであった





## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n7975b/>

---

みる肛門

2010年10月11日01時18分発行